社会と社員の
幸せを追求して、
最高のものづくりを

私たち北越コーポレーションは 1907 年に新潟県長岡市で創業以来、110 年以上にわたり「紙づくり」を中心に事業を展開しています。主な事業領域は、「洋紙」「白板紙」「特殊紙」「紙加工」「パルプ」の5つ。「紙」を通じて私たちの日常生活の当たり前を支えています。

私たちの強みのひとつとして自負しているのが環境経営。環境へのあらゆる影響を最小限にとどめる「ミニマム・インパクト」を基本方針に、紙づくりにおける CO_2排出量は業界トップクラスの少なさです。現在は海外事業のさらなる拡大を進めており、中国やフランス、北米などの海外拠点を中心にして、海外需要を取り込んでいきます。

私たちには、紙のもつ可能性を新たな付加価値として提供する使命があります。その実現のため、これからも挑戦を続けていきます。

「私たちは人間本位の企業として、自然との共生のもと技術を高め最高のものづくりによって、世界の人々の豊かな暮らしに貢献します」

これは、2018 年4月に新しく制定した当社グループの企業理念です。人間本位には、社会そして社員の幸せを追求するという意味を込めています。社員の幸せともものづくりを高いレベルで追求し、両立すること。これが私たちの持続的成長を実現する道だと考えています。

当社新潟工場の 9 号抄紙機（N9）。全長 223m、時速約 100km で約 35 万トンの紙を生産する日本最大級のオールオンライン抄紙機です。高い品質の商品を効率よく生産するには、多くの仲間とのチームワークが欠かせません。

北越コーポレーション株式会社

会社概要

所在地
〒103-0021
東京都中央区日本橋
本石町3-2-2（東京本社）

TEL
03-3245-4500

代表取締役社長 CEO
岸本哲夫

設立年月日
1907年4月27日

資本金
42,020,940,239円

従業員
連結4,714名
単体1,615名
（2019年3月31日）

売上高
275,807百万円
（2019年3月期・連結）

洋紙事業
新潟工場：日本
紀州工場：日本

白板紙事業
関東工場（市川・勝田）：日本
江門星輝造紙有限公司：中国

特殊紙事業
長岡工場：日本
大阪工場：日本
北越東洋ファイバー：日本
東拓（上海）電材有限公司：中国
Bernard Dumas S.A.S.：フランス
HK PAPER(USA), Inc.：アメリカ

紙加工事業
北越パッケージ
関東工場（勝田・所沢）：日本

パルプ事業
Alberta-Pacific Forest Industries Inc.：カナダ

SDGs への賛同

当社グループは国連が進めるSDGs（持続可能な開発目標）を支持するとともに、グループ企業理念やグループ行動規範の実践を通じ、実現をめざして事業活動を展開してまいります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

Hokuetsu Corporation

このパンフレットはハイ・アビスNEO(F) ウルトラホワイト 174.5g/m²を使用しております。

Hokuetsu Corporation

最高のものづくりで
紙の可能性を拓く

HOKUETSU 北越コーポレーション株式会社

人が活きる、真のチームワークがあります

コミュニケーションと情報共有で抄紙機の安定稼働を支える

特殊紙事業本部 長岡工場 工務部 抄造第2課
竹野雄太（2013年入社 自然科学研究科化学専攻）

新人のころはブラザー・シスター制度のもと“師匠”から厳しく指導されたという。「教わったことは私の基礎になっています」。仕事中の対話と飲みニケーションを上手に使い分ける親しみやすい先輩。

長岡工場で、さまざまな機能をもたせた特殊紙という紙の生産管理を担当しています。化学を専攻していたこともあり、入社当時は製紙業界の生産管理といわれてもピンときませんでした。実際は機械に携わる仕事が想像以上に多く、同時に化学のバックボーンも活かせる職場だと思います。

担当する抄紙機（紙を製造する機械）は4班3交替制で 24 時間稼働しています。1台の抄紙機には、年齢やキャリアを問わず、関係会社の人たちも含めて多くの仲間が働いています。安定稼働にはチームワークが欠かせません。生産現場でいうチームワークとは、コミュニケーションと情報共有が基本。意見を聞いて方針を固め、生産を常に改善していくのが私の大きな仕事です。

あるとき、ベテランの先輩とのふとした会話のなかで「些細なことだけど…」という感じで、紙表面の均一性をより確認しやすくする話題がありました。よく調べてみると、抄紙工程が5分短縮できることがわかりました。工場での時間は収益に直結します。5分短くなるだけで、年換算すれば相当な金額の収益改善に役立つのです。

日常の何気ない会話のなかに大きな改善のヒントがある。だからこそ、私はコミュニケーションを大切にしています。

新しい抄紙機の立ち上げに関わる機会を得たときに参画できるように、いまは技術と経験を積んでいます。

プロフェッショナルになるための環境は、すべてここに揃っている

技術開発本部 研究所
吉澤美沙紀（2017年入社 工学研究科物質材料工学専攻）

大学・大学院では有機合成の実験に明け暮れていた。ものづくりを志向した就職活動のなかで、地元と学校の近くに北越コーポレーションの生産拠点があったことに縁を感じて入社したという。研究者として1人立ちするため、目の前の実験に取り組んでいる毎日だ。

同じ実験でも、学校と企業では求められているものが違います。学校では「より良い結果を出す」。企業では「現実を正確に出す」。厳しさがまったく違います。入社してから、先輩たちの実験に対するこのような姿勢を学びました。

研究所の特殊塗工グループで、主に新しいインクジェット用紙開発の研究を担当しています。グループは4人構成で、2人一組で複数のテーマを担当します。実験は基本的に1人で行い、結果が出たらパートナーと評価・検討する仕組み。企業研究者は厳しそうというイメージがあったのですが、研究所の先輩たちは優しい人ばかり。人見知りの私でも毎日楽しく働いています。

オフィスや家庭に広く普及しているインクジェットプリンターは、ハードウェアとインクの技術進化が著しい世界です。当然、使用する紙にも進化が求められます。発色性や耐擦れ性、インクの定着性などを高い次元でバランスする新しい紙を開発したいですね。現在はそのための現状把握と原因追究に取り組んでいます。

知識や実験経験を積んで、まずは塗工分野を極めていき、私の感覚が実験結果や品質評価で研究所に役立つようになりたい。研究テーマや設備、先輩など紙研究のプロフェッショナルになるための環境は、すべてここに揃っていると思います。

書籍・雑誌やスマートフォン、
自動車、食品・飲料のパッケージなど、
紙は人びとの暮らしを素材として支えています。
そして、紙づくりの基本は働く仲間とのチームワーク。
北越コーポレーションの最大の強みでもあります。

当社のものづくりを支える若手エンジニア

施設部 電気計装課付
清水 伸
（2017年入社 電気電子システム工学科）

私が中心で大規模工事を進めることも。プレッシャーを感じることもありますが、仲間や先輩のサポートで乗り越える。その繰り返しです。

建屋から関連の機器類などまで、抄紙機まわりのすべてが業務範囲。仲間とは「とにかく機械を止めない」という強い意志でつながっています。

施設部 施設課 施設係
熊野克志
（2017年入社 機械工学科）

ものづくりの基本は「人」です。現場ではキャリアや年齢は関係ありません。聞きたいことやお願いしたいことは、直接会いに行って解決します。

施設部 施設課 施設係
堀川智史
（2016年入社 機械工学科）

お客さまと工場を「信頼」で結ぶ仕事にやりがいを感じる

当社の営業スタイルは同業他社とちょっと違っています。紙の代理店さんなどのお客さまと商談をする一方で、受注した紙の生産計画を工場と一緒に立案・実行しています。柔軟で効率的な生産・納品が可能になるので、他社でも採用し始めています。

営業というと、客先訪問で1日中外出しているイメージがあるかもしれませんが、私は社内にいることが多いです。電話や面談で商談を行い、それを受けて生産計画の立案をし、工場に指示書を流しています。

紙の営業は受注して生産、納品という単純な流れではありません。価格や納期、在庫との調整など、その時々で会社と会社、人と人との信頼関係が大きく影響します。私は、お客さまである代理店さんが困ったとき最初に相談する営業担当でありたい。実際にそんな相談を受けたときがいちばんうれしいし「何とかします！」と燃えます。

大学時代の友だちには「任される仕事が多いね」と驚かれます。確かに身に付けなければならないことは多く、異動直後は大変でしたが、工場も代理店さんも紙をつくりたい・売りたいという気持ちは同じ。みんなで助け合いながら働いています。人の「信頼」で結び合ういまの仕事にやりがいを感じています。

紙パルプ業界や営業という仕事のイメージにとらわれず、自由な発想をもって飛び込んでみてください。やりがいと達成感のある仕事がきっと待っています。

洋紙事業本部 上級・色上質紙営業部
植田加奈子（2016年入社 法学部法学科）

入社3年目で現在の部署へ異動。お客さまからのさまざまな相談を引き受け、何とか実現してしまう先輩の仕事ぶりに憧れるという。初めての東京での1人暮らしだが「困り上げ社宅はきれいで安全。何の心配もありません」。

業務が幅広い工場の経理にチームワークは絶対不可欠

当社には本社の他に工場ごとに経理部署があり、生産設備ごとに原価計算や効率計算などを行う経理担当者を置いています。私は新潟工場で7号機と9号機を担当しています。経理は計算ミスが許されない仕事ですが、自分なりのチェックポイントを押さえることでこなせるようになります。

本が好きで、よく小説を読んでいました。三浦しをんさんの「舟を編む」のなかで、編集者が紙への強い思いやこだわりをもって辞書づくりを行うシーンが印象的でした。「紙ってこんなに種類や違いがあるんだ」と感じたのが、紙パルプ業界に興味をもった最初のきっかけです。業界のなかでも当社が環境経営に最も注力している会社だということがわかり、入社を希望しました。

工場には膨大な設備があり、多くの人が働いています。資金の出入りも多いことから工場の経理担当者にはチームワークが欠かせません。期末の固定資産の計算で私1人では間に合わないことがありました。先輩に相談したところ、自分たちも忙しいのに2人の先輩が1日空けて、手伝ってくれたのです。その仕事のスピードの速いこと！ あっという間に片付きました。

紙パルプメーカーというと硬派なイメージがありますが、当社はボトムアップの提案が通りやすい風通しのよい会社です。一方で、IT やベンチャー企業ほどゆるくない。自己成長にはちょうどよい感じの社風だと思いますね。

洋紙事業本部 新潟工場 事務部 経理担当
玉野剛志（2016年入社 商学部商学科）

横浜出身で大学キャンパスも横浜と東京。何の縁もない新潟で始まった社会人生活だが、学生時代にやっていたスカッシュで友人が増えたという。「マイナースポーツなので、休日にコートへ行くと知らない人同士でもすぐ仲良くなるんです」。